ソフトボール競技実施要項

1. **競 技 規 則**　２０１８年度（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ルールによる。

2. **競 技 種 目**　ソフトボール競技とする

3. **出 場 資 格**
茨城県、神奈川県、群馬県、東京都、栃木県、千葉県、埼玉県、山梨県に編成した8チームとする。

4. **チームの編成**
(1) チームの編成は、監督・コーチ・マネージャー・スコアラーを含む２０名以内とする。監督またはコーチ・マネージャー・スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、２０名の範囲内で登録しなければならない。
(2) 特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更並び背番号の変更は、本大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申込みは一切認められない。
(3) 県単位にチームを編成できない場合は、他県のチームに（関東地区）２名まで加入することができる。但し、申込み締め切り後の登録・変更については認められない。

5. **試 合 方 法**
トーナメント方式にする。但し参加チームが少ない場合（4チーム以下）はリーグ戦で7回戦とする。

6. **競 技 方 法**
(1) 試合は7イニング制（回）と時間（９０分）制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7回を終了して同点の場合は8回より2回に限りタイブレーカーを適用する。
(2) ９０分を越えて新しい回に入らないものとする。7回まで達した場合は規定時間に達していなくても終了とする。
(3) 3回１５点・4回１０点・5回以後7点以上の差が生じた場合は、得点差コールドゲームとする。
(4) 決勝戦は7回とする。同点の場合は8回より 2 回（2 イニング）までタイブレーカーを適用する。時間制限なし。コールドゲームは採用しない。
(5) 日没・降雨・その他プレーヤーが危険にさらされる恐れが出た場合は、コールドゲームとする。5回あるいはそれ以上の回を終了するかは、その5回裏の後攻チームが攻撃中にあっても、後攻チームが先攻チームより多くの得点をした場合は、コールドゲームとして試合は成立する。
(6) 故意四球は、守備側チームが投球せずに故意に打者を2塁に歩かせるため、投手、捕手あるいは監督が球審のその旨を通告する。

7. **使　用　球**　ナガセケンコー3号球

8. **組み合わせ抽選**

(1) 監督・主将会議において、抽選を行う。

(2) 監督・主将会議において、監督、主将が共に欠席する場合は、事前に監督、主将が作成した委任状を提出しなければならない。

9. **表　　彰**

(1) 決勝戦終了後、閉会式において行う。

(2) 表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。
（1回戦から決勝戦までの全試合を選考基準対象とする。）

10. **そ の 他**

(1) ダブルベースを使用すること。

(2) 外野フェンスを設定すること（68．58m以上）。

(3) ベンチに入る人数は本大会登録人数とすること。

(4) 選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。

(5) グランドの件、できる限りソフトボール専用とか、野球専用で使用すること。

(6) 第1試合開始前に始球式を行なう。

(7) 競技ルール以外の場合は、実行委員会と競技委員の打ち合わせを行うこと。

(8) その他詳細については参加チームに直接連絡するとともに監督・主将で定める。

≪ 注 意 事 項 ≫

1. **選手の集合時間**

試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合4回終了までに、当該球場に集合すること。遅れた場合は、原則として棄権とみなす。

2. **打順表の記入と提出**

試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合5回終了までに、打順表（4枚1組複写）必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順は、審判・記録員の照合確認の上、審判員より受け取る。

3. **攻守順の決定**

打順表提出の時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。
「コイン」の裏表は先着（打順表持参）チームに優先権を与える。

4. **競技者席**

組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。

5. **フィーディング**

(1) 競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。

(2) 後攻チームより5分間とし、審判員の指示に従うこと。

(3) 大会進行上、時間の短縮及び省略することもある。

6. **競技用具**

(1) バット、両耳ヘルメット（JSA）の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、球場本部席で保管する（試合終了後、受け取りにくること）。

(2) 同一チームの選手のユニホームは同色で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。

(3) 背番号は監督 30 番・コーチ 31 番、32 番・主将 10 番・選手は 1 番から 99 番までとする。

(4) 攻撃中の打者、次打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。

(5) 守備中の捕手は、スロートガード付マスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。ボディプロテクターを着用しなければならない。

(6) 捕手（または他のプレーヤー）は準備投球する時も、スロートガード付マスクを着用しなければならない。

(7) 金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする。

(8) コーチBOX内にヘルメットを着用しなければならない。

(9) スコアラー、マネージャーの帽子を着用する（選手同様とする）

7. **競技開始**

(1) 「集合準備」の指示で自己のベンチ前に列横隊に立つ。

(2) 「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

8. **攻守交替・選手交替**

(1) すべて、駆け足で敏速に交替を行う。

(2) 選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

9. **攻守交替のボール**

別に指示があった時以外は審判員に渡さない。

10. **抗議**

審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督または主将に限り、これをただすことができる。

11. **その他**

雨天の際の処置について

ｱ） 小雨決行

ｲ） 試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。但し、雨天の場合は必ず競技場で集合すること。

ｳ） 午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。

ｴ） 大会の負傷・病気については、応急手当は、主催者側では行わない。

11. **本要項の改正**

一部改正　２０１５年８月２９日　関東体育部委員会